地域・離島歯科医療実習　レポート

学籍番号：　4315100287　　氏　名：　寺本　英利

実習先：　諏訪之瀬島　　実習期間：令和２年　２月　２８日　～　３月　１日

１．自然環境

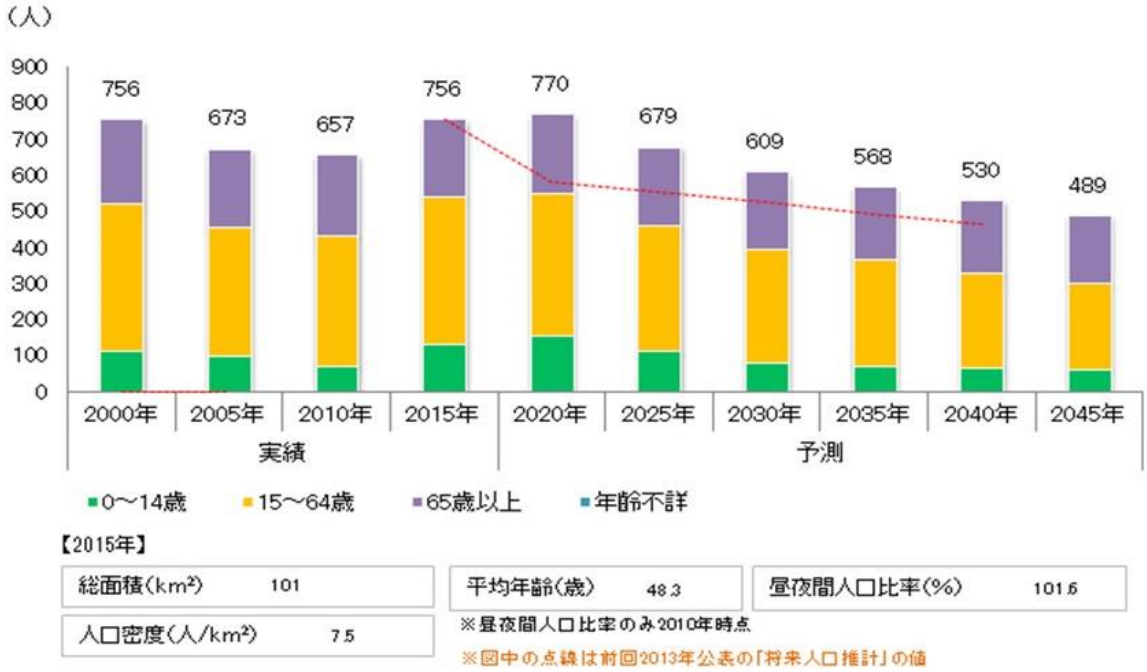
諏訪之瀬島は人口 71 人、世帯数は 32 世帯（2015 年 12 月 31 日現在）。十島村では中之島に次いで二番目に大きい島である。北緯 29 度 36 分 41.2 秒、東経 129 度 42 分 11.3 秒に位置し、トカラ列島に所属する。鹿児島県本土の南西に位置し、竹島、硫黄島、屋久島、口之島、中之島よりも南にある。

交通手段としてはフェリーとしまが鹿児島本港から週二便あり、諏訪之瀬島までは約 9 時間を要する。

自然としては火山活動が活発な安山岩質の成層火山が存在する。島の中央部には崩壊カルデラがあり中央火口丘（スコリア丘）の御岳（おたけ）が形成されている。山頂の南西には直径 200m の旧火口があり 1813 年の噴火では大量のスコリアの噴出についで安山岩質の溶岩流が流出し西海岸まで流下した。この噴火で全島民が島外に避難し 1883 年まで無人島となる。1884 年には御岳の火口から東海岸まで溶岩流を流下し現在でも御岳では桜島と同じく日常的に噴火が発生している。安山岩質の火山は通常ブルカノ式噴火を起こすが、諏訪之瀬島では玄武岩の火山に多く見られるストロンボリ式噴火を多く発生する。
気候は温暖であり、夏季は雨が多い。台風の上陸もしばしばである。

２．社会的背景

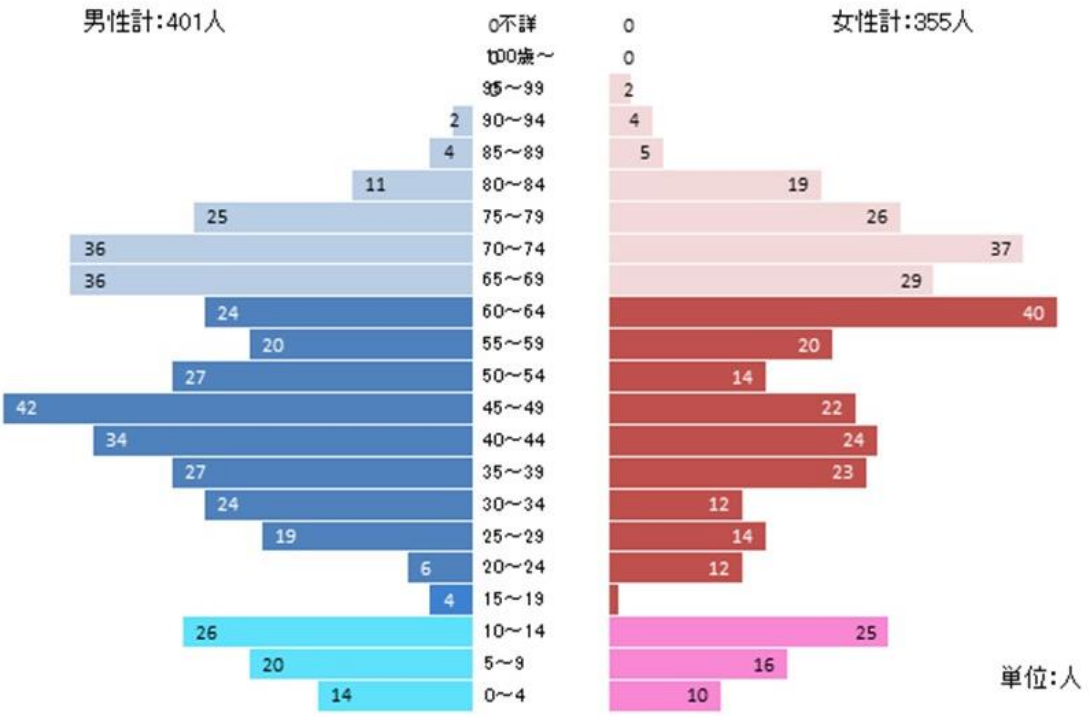
人口は 71 人、世帯数は 32 世帯（2015 年 12 月 31 日現在）小児・中高年層が多いように思った。
以下には十島村の人口に関するデータを示す。諏訪之瀬島単独のデータが見つからなかったためである。



上の表は十島村の人口推移を示している。（データ出所：総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数）

「平成 20 年～24 年 人口動態保健所・市町村別統計」(厚生労働省)によると、十島村の 2008 年～2012 年における出生数は、年平均で 2 人。人口千人当たりでは 3.3 人（全国平均 8.4 人）となり、全国の 1,741 市区町村中 1713 番目。同期間の合計特殊出生率では 1.49 で 800 番目。

上図は高齢化率の推移である。（データ出所：総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数）



上図は 2000 年の十島村の人口ピラミッドである。（データ出所：総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数）

３．住民の生活

住民は、小児と成人が見られたが、高校生などの若い世代が見られなかった。島には高校がないので、高校生になると島を出て本土に行くとのことである。

食生活は魚介類が豊富である。

大半の住民は家庭菜園を持っておられるようであった。

現金収入源は仔牛の出荷、大名タケノコの採取、海産物の漁、公共工事、公共サービス、通船作業などである。通船作業は島の男性総出で行われ、少人数なので結束力が強いと感じた。

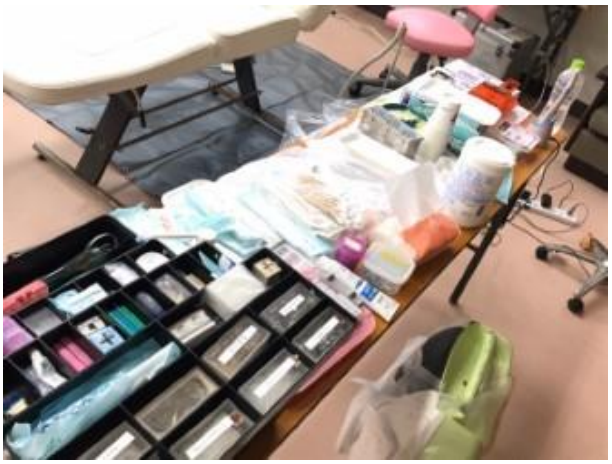
４．医療供給体制

病院がなく、診療所に常駐する看護士が医師と連絡を取り合い病気やケガに対応し、全島民の健康管理を行っている。急病・大けがなどで命にかかわるときは、鹿児島県から救急ヘリが飛んできて対応する。歯科診療所もなく、鹿児島県から巡回歯科診療を行っている。

実習概要

日　付	内　　容
2/28	フェリーにて移動
2/29	７時到着 民宿に荷物を置き、診療車こじかにて診療所まで移動。 ９時診療開始。 主に宝くじ号にて成人の診療を行い、診療所にて小児の診療所を行った。 １３時再び診療開始。 17 時診療終了。
3/1	フェリーにて移動。

巡回診療車宝くじ号



巡回診療時の材料・歯科器具

振り返り記録

・小児・成人ともに、午前中の受診が多かったように思われた。しかし、全体を通して患者の出入りは多かった。

・家族連れで来られる方が多かった。

　お子さんは聞き分けがよく素直に診療に応じていたのが印象的だった。私たちが抑制の補助をすることは一切なかった。これは本土との大きな違いのように思われた。個人的意見であるが、島には医療機関がないために恐怖心が芽生えるきっかけが少ないことや、家族の方も巡回診療を心待ちにしている様子を見て、なおさら病院にマイナスのイメージが芽生えにくいのではないかと感じた。

・口腔内~~も~~の管理状態には、大学病院でみている患者さんと比べて厳しさを感じた。口腔衛生に関する指導を専門医療機関が実施する機会が少ないということもあるが、個人個人の意識にばらつきを感じた。

・小児ではう蝕が多く、歯磨が嫌いで、歯磨剤なしで歯みがきを毎日行っている方もいた。
もっと歯科について深く知ってもらうことが必要と感じた。

・成人の方は、疾患が見つかる方が多かった。個人的には義歯床下の潰瘍が多いように感じた。この理由としては、近くに医療機関がないため義歯の調整に行けずに合わない義歯を使用している方が多いからではないかと考えた。

・人柄が暖かい方ばかりで、鹿児島に帰るフェリーの見送りに来てくださった方もいた。補助の私たちの顔も覚えてくださっていて、「昨日はありがとうね」と言ってくださった。

・離島に初めて行った私が全体的に感じたのは、島の人の温かさと、医療機関がいかに不足しているかということである。しかし厳しいように見えた口腔環境も衛生士さんや先生のお話では最初と比較して大幅に改善されているということだった。なので、これからも離島への巡回診療は島の住民の健康を守っていくうえで必要であり、できることなら個人個人に合わせた医療の提供が望ましいと考えた。一方で、個人個人に合わせた医療の提供は巡回診療では時間と材料も限られており難しい課題に思った。